

応急手当の方法

出血していたら

出血の部分を調べる

傷口を圧迫する

出血している部分にガーゼやタオルをあて、その上から手のひらで圧迫します。また、感染を防ぐため、ビニール手袋やビニール袋の使用が望ましいです。



ポイント

出血を止めるために手足を細いひもや針金で縛ることは、神経や筋肉を損傷する恐れがあるので行いません。

骨折していたら

骨折の部分を調べる

骨折の見分け方

- ケガをしたところが不自然に変形している
- 腫れて、痛みが激しい
- 骨が突き出ている

※疑わしいときは、骨折したものととして手当を行います。

患部を固定する

添え木で骨折した部分の上下の関節を固定して動かないようにします。身近で代用できるものを使いましょう。

腕の場合



足の場合



腕の場合は板切れ、足の場合は傘等を使うとよいでしょう。

傷病者がいたら

安全な場所へ搬送

徒手搬送法

傷病者の脇の下から腕を通して、傷病者の手を掴んだまま搬送します。



搬送できる人が二人いる場合は、腕を組み、その上に傷病者を乗せて搬送します。



担架搬送法

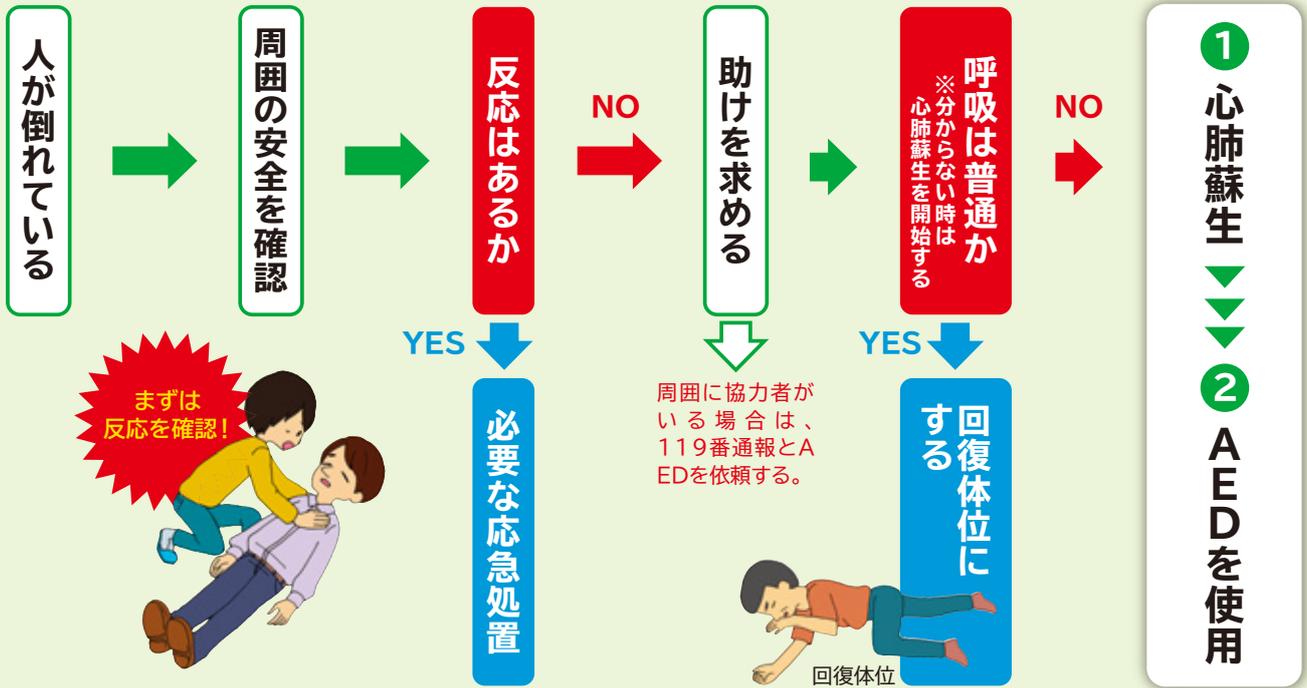
毛布を使った 応急担架の作り方

- ①毛布を広げ、棒を端から3分の1の場所に置く。
- ②初めに置いた棒を包むように毛布を折り返し、もう1本の棒を置く。
- ③残りの毛布を折り返して出来上がり。棒の両端を持って搬送します。

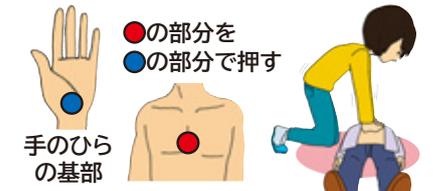


🔴⚡ AEDを使った救命処置

電源が入るとAEDから音声ガイドが流れますので、それに従って処置を行いましょう。



① 心肺蘇生の方法



1 胸骨圧迫 1分間に少なくとも100~120回のリズム

傷病者に普段どおりの呼吸がないと判断したら、ただちに胸骨圧迫を開始し、全身に血液を送ります。「強く・速く・絶え間なく」を意識し、胸骨圧迫を30回続けます。



2 気道確保

片手で額をおさえながら、もう一方の手の指先をあごの先端にあてて持ち上げ、のどの奥を広げ空気の通り道を確保します。



3 人工呼吸

気道確保したまま、1秒かけて息を吹き込み胸が軽く膨らむの確認します。これを2回行います。終わったら再び①~③をくり返し行います。人工呼吸がうまくいかなくても2回までに止める。また人工呼吸をためらう場合は胸骨圧迫のみ実施する。

② AEDの使用

- 心肺蘇生を行っている途中で、AEDが届いたらすぐにAEDを使う準備をはじめます。
- 可能であれば、AEDの準備中も心肺蘇生を続けてください。



1 電源を入れる

機種によってはふたを開けると電源が入るものもあります。



2 パッドを皮膚に貼る

隙間ができないよう、密着させて貼ります。



3 心電図の解析

AEDが自動的に傷病者の心電図を解析します。



4 電気ショック

電気ショックの指示が出たら、誰も触れていないことを確認して、ボタンを押します。

全国版救急受診アプリ「Q助」を活用しよう

消防庁では、住民の緊急度判定を支援し、利用できる医療機関や受診手段の情報を提供するため、全国版救急受診アプリ「Q助」を配信しています。「Q助」を活用し、万が一の事態に冷静に対応できるようにしておきましょう。

Google Play

App Store

Web版



AED(エー・イー・デー)

自動体外式除細動器。胸の上に貼ったパッドから心臓の状態を判断し、心室細動という不整脈を起こしていれば、電気ショックで心臓の状態を正常に戻す機能を持っています。

災害が起こったら